

VI

# 四季風俗図屏風



# 51 野外で焼き肉を楽しむ



1 頭巾 (幅巾)	1 복건
2 防寒衣 (褙子)	2 배자
3 上衣 (紅衣)	3 홍의
4 簪	4 짓가락
5 防寒帽 (耳掩)	5 이엄
6 防寒帽 (風遮)	6 풍차
7 上衣 (中致莫)	7 중치막
8 防寒用腕貴	8 토시
9 パッチ	9 바지
10 足袋	10 버선
11 冠 (宥巾)	11 탕건
12 上衣 (小氈衣)	12 창옷
13 酒瓶	13 술병
14 卷上げ髪	14 엇은머리
15 チョゴリ (半回装)	15 반회장저고리
16 チマ	16 치마
17 円座	17 깔개
18 莫産	18 화문석
19 猫足膳	19 개다리소반
20 壺	20 중발
21 小鉢	21 중발
22 大鉢	22 자배기
23 杓子	23 구기
24 盆	24 쟁반
25 火鉢 (暖炉)	25 화로
26 鉄製の平鍋	26 번철
27 肉	27 육고기
28 角巾着	28 귀주머니
29 草笠	29 초립
30 防寒帽 (ナムバウイ)	30 남바위
31 上衣 (道袍)	31 도포
32 チョゴリ	32 저고리
33 帯 (細条帯)	33 세조대
34 防寒帽 (揮項)	34 휘항
35 頭巾	35 건
36 手拭い	36 머릿수건
37 松	37 소나무

大きい松の木の下に莫産を敷き、男女が火鉢で肉を焼きながら酒を楽しむ野外での小宴の様子が描かれる。男女7人が囲んでいる火鉢には浅い鉄鍋が置かれ、その上で肉が焼かれている。火鉢の隣には、壺や小さな鉢が置いてある膳、野菜と思われる食べ物を盛った大きい盆、そして杓子が入っている大鉢がみえる。焼いた肉を口にしている人、焼いている人など、場面の設定は現代における野外でのパーベキューパーティを連想させる。5人の男性に同伴している2人の女性は、頭巾を被っている姿や、箸で

肉を掴まんで隣の男性に食べさせようとしているしぐさから、平民の婦女というより妓女であると思われる。

野外での焼肉宴会については洪錫謨の『東国歳時記』(1849)の記述が知られている。「最近の漢陽には、暖炉に炭火を熾し、鉄鍋をのせて牛肉を焼いて食べる風俗がある。牛肉は油、醤油、鶏卵、大蒜、唐辛子などで調味をし、数人が暖炉を囲んで食べるが、これを暖炉会という」と記している。この図のなかで、焼いている肉もおそらく牛肉であろう。

牛肉は、朝鮮時代の儒教祭祀でもっとも重視された供え物であった。そのために、王室や裕福な両班家、郷校などの祭祀に用いられる供え物以外には、民間で牛肉が消費されることはほとんどなかった。しかも、牛は農作や運搬には欠かせない重要な労働力と認識されていたため、頻繁に屠殺禁止令が出された。屠殺禁止令にもかかわらず、一部の支配階層が祭祀の供え物としてのみならず、食用の目的で牛を屠殺するのは茶飯事だったという。野外で焼く肉は、朝鮮時代においてももっとも豪華な食べ物の一つとして好まれ、禁止令にもかかわらず富裕層の間では、このような焼肉野宴が行われていたのであろう。

男女の服装、特に男性の服装から、季節は冬であると判断される。朝鮮時代の服装には特に冬着というものはなかったが、男女共に防寒具を使用することで厳しい寒さを凌いだ。例えば、左側の毛糸の座布団に座り、右手で何かを掴まんで食べている男性が被っているのは、耳掩と呼ばれる防寒帽で、頭、耳、首を覆う。右側にうずくまっている草笠の男子が被るものもナムバウイという防寒帽である。背景の丘に施された薄い色は残雪の表現なのか。登場人物の装いと共に、図の設定は『東国歳時記』が伝える陰暦10月の暖炉会であろう。(金)

# 52 官吏の外出に直訴



1 日傘	1 일산
2 枢	2 멈춤쇠
3 柄	3 손잡이
4 傘飾り (流蘇)	4 유소
5 日傘を持つ男	5 일산을 든 남자
6 帽子 (黒笠)	6 흑립
7 上衣 (帖裏)	7 칠리
8 扇子	8 접부채
9 割符入れ	9 병부주머니
10 パッチ	10 바지
⑪ 輿 (藍輿)	⑪ 남여
12 虎皮の敷物	12 호피
13 担い棒	13 멜대
⑭ 担い綱を肩にかける	⑭ 멜빵을 어깨에 걸어 남여를 지다
15 輿舁き	15 가마꾼
16 フェルト帽 (ボンゴジ)	16 병거지
17 担い綱	17 멜빵
18 上衣 (号衣)	18 더그레
19 脚絆	19 행전
20 藁履	20 짚신
⑰ 背負う	⑰ 짊어지다
22 官印箱	22 인케 (인뒤웅이)
23 チョゴリ	23 저고리
24 お下げ髪	24 땡은머리
25 お下げ髪の先飾り (デンギ)	25 땡기
26 筆	26 붓
27 硯	27 베틀
28 紙	28 종이
29 帽子 (朱笠)	29 주립
30 髻 (メンサントウ)	30 맨상투
⑱ 跪く	⑱ 무릎을 꿇다
32 軍服 (鵝衣)	32 작의
33 帯 (戦帯)	33 전대
34 火鉢	34 수로
35 棍棒	35 곤봉
36 紅門	36 홍살문
37 格子窓	37 격자창
38 草屋根	38 초가지붕
39 石垣	39 돌담
40 羊	40 양
41 柴垣	41 쉼나무울타리

両班の外出風景を描いている。公務ではなく、どこかへ遊びに出かける様子を示している。主人は前後2人の人物に担がれた輿（藍輿）に乗っている。肩で担ぐのではなく、両肩に掛けた紐で支えながら脇の高さで運んでいる。日本では専ら肩で担ぐ駕籠や輿が発達したが、朝鮮半島ではむしろ脇や腰の高さで支える輿が一般的であった。主人には大きな傘がかざされている。官印箱を背負った従者が随行し

ており、官吏一行と判断できる。一行には男子の従者だけでなく、妓女や食器や食物を運ぶ女性も含まれている。やはり武器・武具の携行は見られないが、先頭に行く2人の人物は警護役と思われ、六尺棒のようなものを持っている。警護役の横では、2人の人物が畏まって座り、一行の行く手を遮っている。その前には、やはり座って2人の方を向いて話を聞き、筆をとって紙に書いている人物がいる。その後ろには大きな荷物があるので、遠方から来たことをうかがわせる。この2人は何かを官吏に訴えようと直訴に来たものと判断される。横でそれを記録しようとしているのは、依頼を受けて内容を訴状に位立てあげる代書人であろうか。警護役は困惑した顔で彼等をながめている。

この場所は町場ではない。背景に描かれているのは草葺き屋根の農家建築である。農家はいずれも切妻式で、妻の部分に格子窓が付けられている。親子連れと思われる家畜が描かれているが、羊と判断してよいであろう。集落のなかに高い楼門が立てられている。図では半分ほどしか描かれていないが、紅門である。これはそこに官衙のような特別な施設があることを示している。官吏はそこから出てきたのかもしれない。(福田)

# 53 冬の街角



町を歩く妓女の一行を描いた場面である。3人の女性はジョンモ（氈帽）と呼ばれる笠の下に被り物（カリマ）をしていることから、妓女であることがわかる。ジョンモ（氈帽）は、竹で骨をつくり、油

を塗った紙を張って作る笠で、雨の日や日除けに使われたが、主に妓女が外出時に使っていたため、俗に妓女笠とも呼ばれた。

3人の妓女が会釈をしている男性は、武官の服装

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| ① 従者                 | ① 중자        |
| 2 防寒帽（風遮）            | 2 풍차        |
| 3 お下げ髪               | 3 땅은머리      |
| 4 お下げ髪の先飾り（デンギ）      | 4 땡기        |
| 5 防寒衣（褌子）            | 5 배자        |
| 6 チョゴリ               | 6 저고리       |
| 7 風呂敷包み              | 7 보따리       |
| 8 パッチ                | 8 바지        |
| 9 角巾着                | 9 귀주머니      |
| 10 脚絆                | 10 행전       |
| 11 藁履                | 11 짚신       |
| 12 笠（氈帽）             | 12 진모       |
| 13 笠（氈帽）の紐           | 13 진모끈      |
| 14 チョゴリ（半回装）         | 14 반회장저고리   |
| 15 腰帶                | 15 허리띠      |
| 16 たくし上げたチマ（ジュリッテチマ） | 16 주릿대치마    |
| 17 下着のパッチ（ダンソッゴッ）    | 17 단속곳      |
| 18 下着のパッチ            | 18 바지       |
| 19 皮履（雲鞋）            | 19 운혜       |
| 20 妓女用被り物（カリマ）       | 20 가리마      |
| 21 防寒帽（ナムバウイ）        | 21 남바위      |
| 22 帽子（黒笠）            | 22 흑림       |
| 23 防寒帽（揮項）           | 23 휘항       |
| 24 遮面扇               | 24 차면선      |
| 25 帯（広多絵）            | 25 광다회      |
| 26 上衣（帖裏）            | 26 철릭       |
| 27 皮履（太史鞋）           | 27 태사혜      |
| 28 頭巾（幅巾）            | 28 복건       |
| 29 扇子                | 29 집부채      |
| 30 上衣（道袍）            | 30 도포       |
| 31 草葺き上屋             | 31 초가지분궁    |
| 32 門柱（自然木）           | 32 문기둥(자연목) |
| 33 垂木                | 33 서까래      |
| 34 門扉                | 34 문비       |
| ㉞ 網代垣                | ㉞ 사자리담      |
| 36 網代垣の柱             | 36 담기둥      |
| 37 網代垣の横棧            | 37 사자리담의 띠살 |
| 38 醤油甕               | 38 장독       |
| 39 髻髪（後髻）            | 39 쪽진머리     |
| 40 チョゴリ（三回装）         | 40 삼회장저고리   |
| 41 チマ                | 41 치마       |
| 42 草屋根               | 42 초가지붕     |
| 43 突き上げ戸             | 43 들창       |
| 44 フェルト帽（ボンゴジ）       | 44 병거지      |
| 45 負い紐               | 45 멜빵       |
| 46 荷包み               | 46 봇짐       |

である青い帖裏という上衣に朱色の帯をしていることから、身分は武官であろう。男性の手には、女性の前で顔を隠すために使われた遮面扇が見える。遮面扇を外し、妓女の会釈に答えている様子から、面

識のある間柄であると思われる。

妓女一行のとなりに立つ少年は、妓女に仕える従者であろう。耳までおおう防寒帽（風遮）を着用し、赤色の風呂敷包みを手に持っている。元服前の髪型であるお下げ髪の前にはデンギという先飾りが腿の辺りまで達しており、腰にぶら下げている巾着の紐も鮮やかな色で、身なりにはかなり贅沢をしている様子である。

妓女の一行と青い帖裏の男性を珍しげに見つめる人々のしぐさから、派手な身なりが注目を集めていることが分かる。

垣越しに妓女の一行を覗く女性は、髻髪（後髻）の髪型に三回装チョゴリ、そしてチマの回し方も左から右の方向になっており、裕福な家庭の婦女子であろう。襟と結び紐、そして袖先に異なる色を当てる三回装チョゴリは、民間の女にとって最高の礼服とされ、主に両班家の女性のみに着用が許されたが、図の女性は妓女と対比される身分として表そうとしたのか、三回装チョゴリの姿である。

朝鮮時代には、一般の婦女子がチマを右回しとするのに対し、妓女の場合は必ずチマの回しを右から左へと回し、身分を明確に表わさなければならなかった。図の中の後ろ姿の妓女のチマは左回しであるが、正面を向いている2人の妓女は右回しをしている。絵師の描き間違いであろうか。

朝鮮時代の服装には、冬の寒さに合わせた特別な冬着はなく、風遮、ナムバウイなどの防寒具をつけることで寒さを凌いだ。図の中に、女性はナムバウイという暖帽を、男性は風遮、揮項といった防寒帽を着用している。荷物を背負っている男性も首の周りまでかぶる風遮のような防寒具を着用しており、場面の設定は、妓女の外出を町の人々が珍しそうに見ている冬のひと時であろう。（金）

# 54 町場で喜捨を乞う





1 笠 <small>うちわ</small>	1 샷갓	25 老婆	25 노파
2 団扇	2 쥘부채	26 子供を負ぶう	26 아이를 업다
3 チョゴリ (ミンチョゴリ)	3 민저고리	27 角巾着	27 귀주머니
4 チマ	4 치마	28 上衣 (道袍)	28 도포
5 柄付小鼓	5 소고	29 帯 (細条帯)	29 세조대
6 桴	6 북채	30 笠紐	30 갓끈
7 三角帽子	7 곱갈	31 帽子 (黒笠)	31 흑립
8 僧衣	8 승복	32 草笠	32 초립
9 パッチ	9 바지	33 上衣 (紅衣)	33 홍의
10 脚絆 <small>はいのう</small>	10 행전	34 扇子越しに見る	34 부채너머로 보다
11 背囊 <small>びくえ</small>	11 바람	35 石橋	35 석교
12 黒衣	12 장삼	36 橋板	36 상판석
13 お下げ髪	13 땅은머리	37 橋頭	37 석주
14 お下げ髪 <small>の先飾り</small> (デンギ)	14 땡기	38 石欄干	38 돌란대
15 鶏	15 닭	39 橋脚	39 교각
16 上衣 (小氈衣)	16 창옷	40 風呂敷 (褌)	40 보
17 笠を膝において座る	17 흑립을 무릎 위에 놓고 앉다	41 猫足膳	41 개다리소반
18 敷き物	18 자리	42 頭上運搬	42 머리에 이고 나르다
19 銭	19 엽전	43 法面	43 축대
20 巻上げ髪	20 엷은머리	44 雁	44 기러기
21 チョゴリ (半回装)	21 반회장저고리	45 鶯鳥	45 거위
22 帽子 (戦巾)	22 갈대기	46 柳	46 버드나무
23 軍服 (鵲衣)	23 작의	47 瓦屋根	47 기와지붕
24 帯 (戦帯)	24 전대		

芸人である寺党牌達が客寄せをし、喜捨を受けている姿を描いた絵だと思われる。川沿いの道で、石橋のたもとに人々が集まっている。川沿いには柳の木があり、鶯鳥や雁の姿が川面に見える。人家も見えるので、町場である。

2人の男が僧侶姿で小鼓を叩きながら踊っている。その前方では、女性が2人、団扇でお金を取っている。周囲の者は、子どもを負ぶった老女、網巾をして帽子(黒笠)を被った成人男性、まげも結っていない若い男性、橋を渡っている若い女性などの老若男女である。手ぶらの者もいるが、鶏を手にする者や荷を背負う男性もいる。この場所は市に近く、市へ買い出しなどに来た者達が通りかかるところへ、寺党牌達が場所取りをしたのであろう。

寺党牌は、軽業や芸を行う旅回りの芸能者である。主に芸を見せることで収入を得るため、物品を販売する商売とは異なる。この絵の場合、女性が腰に手をあて、やや反り返りながら団扇を突き出し喜捨を要求していたり、地面に敷いた筵状のものの上に受

け取ったばかりのお金を団扇から無造作に落としていたりする。お金をやりとりする瞬間が生き生きと描かれているが、女性達が喜捨を受けるのに、たいへん積極的であることが分かる。なお、細い棒状のものを手にした男が複数いる。寺党牌達が符籍を売っていると指摘する者もあるが、定かではない。民間宗教者や芸人との間でのお金の受け渡しは、現在でも扇子に載せておこなわれることがある。

橋のたもとの若い男性達の視線は、後ろを通り過ぎた女性を追いかけている。この女性は、風呂敷で包んだ猫足膳を頭に載せ、橋を渡っている。頭髪から未婚であることが分かる。上等なチョゴリを着て、チマをたくしあげ、注意深く歩く様子から、身分の高さや育ちの良さが窺える。僧侶姿の寺党牌達は、通りすがりの人々の関心を集めることに必ずしも成功していない。手前では、これらに頓着せず、老女が赤ん坊を背負って道を急いでいる。町場の人々の移り気な心持ちやせわしなさが浮かび上がってくる。(中野)